

令和元年度 事業計画書

1 事業の実施にあたって

富士市文化振興財団は、富士市の文化行政の一端を担うため、平成4年4月1日に設立され、富士市文化会館ロゼシアターを活動拠点として、この25年の間、様々な自主事業を展開するとともに、富士市を中心とする地域住民の皆様の文化芸術活動を支援し、また文化会館のより良好な管理運営に取り組んできました。本年1月末までに当会館の利用者は、累計で1,140万人を超えるとともに、実施した自主事業も1,000事業を超え、静岡県東部地域の文化芸術の牽引役として精励しています。

しかし、開館から四半世紀を経て会館施設の老朽化が進んでおり、維持保全への対応が近年の大きな課題となっています。

このため、富士市は会館の長寿命化を図る長期改修計画の策定を進め、その一環として、平成30年度に省エネルギー化を主な目的とするE S C O事業の導入を決定し、空調設備や電気設備等を更新する大規模改修工事が本年度に実施されます。

また、本年度は、5月に新たな元号となり、10月には消費税増税が控えるなど社会情勢の変化が見込まれますが、当財団が市より第4期目の指定管理者に選定された初年度となり、今後の5年間、さらなる努力を重ね、より良い会館の管理運営と自主事業の展開に努めます。

会館運営にあたっては、E S C O事業に伴う大規模改修工事や、この休館中の窓口業務において、来館者の安全、安心を第一に、市と連携して円滑に改修工事が完了するよう努めることをはじめ、安定したサービスの提供と利用環境に配慮した会館の管理と運営を行います。

施設設備の保守管理については、市が実施する工事・修繕に万全の協力体制をとるとともに、ホール座席の修繕を継続するほか、消耗部品の交換、不具合箇所の修繕、舞台設備の保守整備、さらにはホールピアノの周期保守点検など、利用に支障がないよう施設の維持保全に努めます。

自主事業については、E S C O事業に伴う大規模改修工事により1月から3月に施設が利用できないことから、会館内での事業は12月までに実施し、工事期間中はアウトリーチ事業を中心に行うなど、積極的な自主事業の展開を図ります。

当財団は今後も、市民をはじめ地域住民の皆様に対して、これまで培った経験と実績を文化芸術事業において還元するために、努力を重ねます。

2 管理運営事業

令和元年度は富士市文化会館の新しい指定管理期間を迎えます。開館以来25年間にわたり、施設の管理運営を担ってきた経験や蓄積されたノウハウを活かし、引き続き市民が利用しやすい会館運営に努めます。

近年の人口減少、少子高齢化は、文化会館の運営においても少なからず影響をもたらすものであり、年間の施設利用者数は、この数年減少傾向にあります。こうした社会背景や地域の実情を踏まえ、今後は、若年層の確保、次代を担う世代の利用拡大に注力します。対策としては、吹奏楽や演劇の大会・コンクール等の大規模催事を積極的に招へいし、青少年の文化活動の支援、施設の利用推進に繋げてまいります。また、高齢者や体の不自由な方が、施設を利用しやすいよう、手すり取付けやサイン表示等を整備・拡充し、利便性の向上に努めます。

新年度下期に計画されているE S C O事業に伴う大規模改修工事は8月から始まり、1月から3月には長期休館を伴って実施されます。これは富士市による事業ではありますが、改修により老朽化が進む熱源、空調、電気等の基幹設備が更新されることにより、運用上の安全性、安定性が高まることはもとより、省エネルギー効果も大きく期待されます。財団として市民の施設利用を考慮しながら、事業が円滑に実施されるよう、市及びE S C O事業者と協力し、対応します。

設備・備品についても、経年による老朽、消耗が顕著なものについては、計画的に更新やメンテナンスを行います。また、周期保守委託として、ホールで運用するコンサートピアノ1台のオーバーホールのほか、舞台機構、音響機器、照明設備等について整備・保全を計画しています。

このほか、災害対策についても、万全の備えを講じます。火災、地震、自然災害等を想定した避難訓練を実施するほか、職員に防火管理講習や救急救命講習への参加を促し、防災意識の啓発を図ります。

◇ 通常委託業務以外に必要とされる主な周期保守委託業務（計画）

- ・ 舞台音響設備・・・・・・・・・・舞台袖システムリモートボックス等整備
- ・ 舞台照明設備・・・・・・・・・・小ホールフロントライト器具更新整備
- ・ 舞台機構設備・・・・・・・・・・冷却ファン等整備
- ・ 舞台大型備品整備・・・・・・・・・・コンサートピアノオーバーホール

3 自主事業

(1) 自主事業計画方針

令和元年度は、当財団が4期目の指定管理者として今後5年間の管理運営を任された最初の年度にあたります。会館施設の維持管理及び運営に加え、自主事業実施の面でも、充実したプログラムを展開していきます。

平成25年度に富士市が策定した「富士市文化振興基本計画」では、“こころ豊かな人を育てる文化のまち”～人が文化を創り、文化が人を育てる～を基本目標とし、「楽しむ」「育てる」「伝える」という3つのキーワードを掲げ、将来に向けた地域の文化振興の基本的な考え方や計画の体系、進むべき施策の方向性を示しています。

財団の自主事業においても、この基本方針に則り、富士市及び地域に根差した文化の創造、鑑賞機会の提供に努めます。

事業では、1月～3月に実施されるESCO事業に伴う大規模改修工事に伴い、館内施設の利用ができないため、事業の前倒しでの実施とともにアウトリーチ事業などを充実し、魅力ある事業の構築を目指します。

さらに、従来実施してきた事業についても、時代の変化や市民ニーズに柔軟に対応し、事業内容のリニューアルを検討していきます。

特に、日頃、会館に足を運ぶことができない方が気軽に文化芸術に親しめるよう、「おでかけミュージカル」や「おでかけクラシック」、「おでかけ芸術教室」などのアウトリーチ事業を市内各所で実施してきましたが、その反響も大きく地域や学校に定着しつつあることから、さらに積極的に取り組みます。

この他、地域の学校や団体との連携や交流、様々なメディアを活用した多角的かつ効果的な広報展開や情報発信にも力を注ぎ、市民に親しまれる自主事業を構築します。

市から受託する事業としては、「ふじ・紙のアートミュージアム」の事業運営について協力をしていきます。

令和元年度も、市民が文化芸術に触れ、楽しめるような環境づくりに努め、様々な文化事業を実施し、地域文化の振興、人材育成、交流の促進、文化情報発信に力を注いでいきます。

(2) 自主事業の概要

当財団は、富士市文化会館を地域文化の拠点として、市民文化の創造と発信の場としていくために、市民文化の振興を目的とした独自の自主事業を展開していく必要があります。

自主事業は、事業の目的毎に「普及事業」「育成事業」「創作事業」「交流事業」「鑑賞事業」「広報事業」に分かれており、令和元年度も各事業に応じたプログラムを計画的に実施していきます。

普及事業では、クラシック音楽の普及と優れた芸術文化に触れる機会を提供することを目的としたふじ少年少女芸術劇場「小・中学生招待コンサート」や「小学校学校コンサート」等を行います。

育成事業では、未就学児でも入場可能な「ロゼこどもスプリングコンサート」や「ロゼこどもコンサート」、地元出身の演奏家による「新人音楽家による演奏会」などに加え、地域で吹奏楽に親しむ中高生を対象とした「シエナ・ウインド・オーケストラ アンサンブル・ワークショップ」を開催します。同楽団とは、様々な形で連携し事業展開していくことを計画しています。また、施設の利用ができない改修工事期間中は、アウトリーチ事業を展開し、音楽の普及や指導者の育成に努めます。展示部門では、18回目となる「新進アーティスト作品展」を開催します。

創作事業は、平成10年より継続して開催しているミュージカルをオムニバス形式で発表公演を行います。

交流事業では、地元文化団体の協力のもと、館内施設を活用した「スタンプラリー」や「トレインフェスタ」、アウトリーチ事業として定着してきた「おでかけ芸術教室」「おでかけクラシック」「おでかけミュージカル」を実施します。

鑑賞事業は、幅広い世代が、様々な文化芸術をお楽しみいただけるよう音楽から古典芸能等、多彩なジャンルの公演を行います。音楽公演では、開館記念日に開催するソリストにピアニスト反田恭平を迎えた「ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団」演奏会や情報誌ロゼの人気企画をコンサートにした「ロゼ・クラシックカフェコンサート」を開催します。古典芸能では、「林家たい平の親子で楽しむ落語会」、「野村萬斎～狂言の夕べ～」、「ふじ寄席」を開催します。また、アンケートでのリクエストも多い「劇団四季」や16回目の開催となる「ロゼフォークプラザ」を行います。

協力事業では、市から受託する事業として「ふじ・紙のアートミュージアム」の事業運営について協力をしていきます。

共催事業では、静岡交響楽団が開催する「ファミリーで楽しむ新春ニューイヤークンサート」をサポートし、クラシック音楽の普及に努めます。

この他、広報事業として多彩な芸術文化情報を広く市民に提供するため、「文化情報誌ロゼ」や静岡県東部地区を主対象に総合チラシの新聞折込を行う「ロゼナビ」を発行し、自主事業の周知に努めます。

令和元年度も、幅広く市民のニーズに応えるよう、多種多様な自主事業を展開していきます。